

## 参加者の感想(抜粋)

### 【漫画分団】

- 省エネ・排出削減分野で、私たちは日本に学ぶべきことが多い。一度悪い結果が生じれば、多くの人、物、資金を投入して処理しなければならない。だから、その根源から阻止し、未然に防ぐに越したことはない。自動車や工場の排出基準の引き上げ、設備の更新など、まだ多くの課題が残されている。

また、中国の人々は環境保護に対する意識がまだ足りない。日本では、「自分の生活や仕事の環境を改善しよう」という責任感を持っている人が多いが、中国では、環境問題は一人一人に責任があると意識している人は少ない。日本では、ごみ回収、リサイクルは既に成熟した流れができていますが、中国ではまだ始まったばかりだ。日本に比べ、中国は土地が広大で、資源は豊富ではあるが、だからといって浪費してはならず、後世に配慮すべきだ。

一人の医学生として、四日市公害と環境未来館で、当時のぜんそくに悩む大人と、予防のために何度もがいをしている子供たちの写真を見て、私はたいへん心が痛んだ。みんなが自分や他者そして地球全体に責任を持ち、共有する環境及び全人類の健康を守ってほしい。

- 交流活動中、日本について最も印象深かったことが二つある。一つは日本の現代文明と伝統文化の融合と共生である。浅草寺、名古屋城、皇居そして様々な神社を参観する中で、日本人が自らの伝統文化を重視し、継承し、保護する精神を感じた。さまざまな博物館や工場、大学を参観し、日本の現代化の発展レベルにも驚いた。その科学技術、教育及び文化はいずれも貴重な体験をさせてくれた。

もう一つは、日本人の素晴らしい素質だ。訪日期间中に触れ合った日本人は、店員であれ、一般市民であれ、その友好的で礼儀正しい態度と自律的な品行に私は感動し、細部に対する重視、世の中での務めに対する責任感、中国の人々が学ぶべき点だ。

日本は礼儀と秩序を重んじる国で、公民の行為に対する規範は道徳や世論にとどまらず、具体的に法律の条文でも明文化されている。それに対し、我が国の法律には大きな空白が存在し、貧困層に対する利益保障が欠けており、この分野で日本の公平と正義を重視する法律理念は、我が国の立法が大いに参考にする意義がある。

- 百聞は一見に如かずと言われる通り、一週間の日本での交流を通じて、私たちは様々な日本文化を自ら体験し、隣国に対する新たな認識は、書籍や日常での理解より遥かに深まった。これは、特に環境・防災及び防害施設の視察で具現化された。私の故郷は河北省で、重工業による汚染の影響に悩む省であり、多くの地域住民の生活状況は70年代の四日市にも及ばない。しかし今、視察や比較を経て、国内の汚染された都市は、同じような環境変革の契機にあるとの考えに至った。そして、真の環境保護は政府主導ではなく、社会の環境保護に対する高い統一された認識と自覚が必要で、ただ「省エネ・排出削減」「低炭素の生活」等の概念を提唱するだけでは効果は小さい。

また、中京大学、明治大学との友好交流では最大の収穫を得た。大学はその民族の象徴であり、大学生は大学の生命だ。中国の大学生の代表として、日本の大学のキャンパスに入り、日本の同じ立場の人達と交流できて、たいへん光栄に思う。また、このような交流・訪問及び歓迎レセプション等の社会活動は、まだ社会経験のない学生にとって非常に貴重な経験だ。

- 日程の順に述べると、まず清掃工場の見学と学習で、ごみの分別処理は中国国内でも行われているが、普通はリサイクルごみとリサイクルできないごみの2つに分けているだけだ。更に、一般市民に対する宣伝も足りず、ごみのポイ捨てや使用済み電池など特殊なごみが適当に捨てられている状況だ。また、回収後のごみの処理方法で、中国では大部分が通常の焼却のみで、他に処理方法はない。だから、帰国後は両親と学友にごみ分別に関する概念を普及し、今後の生活において周囲の環境の清潔・衛生維持に努力したい。

続いて、印象深かったのは、四日市公害の裁判だ。現在、我が国の第二次産業は依然発展の勢いを維持し、PM2.5等の概念の普及により、一般市民も工場の汚水・排ガス排出が環境を破壊すると認識している。しかし、関連部門による監督管理の力不足等の問題により、一部都市の大気の状態は悪化の一途を辿っている。私ができることは、家族や友人に排出削減ひいてはゼロ・エミッションを促すことだけだ。排出削減は、みんなが共に努力する必要がある。

植樹について、国内では西北防護林事業など、既に一連の成果が表れている。しかし、植樹に力を入れる一方で、過度の放牧や伐採等、森林植皮の破壊がまだ続いている。

- 環境保護と防災の分野で、日本の経験・技術と対策はたいへん先進的であり、国レベルで比較すると、中国はまだ足りない部分がある。日本人の環境保護と防災の意識はたいへん高く、私たちは日本に学ぶべきで、子どもの頃から意識向上を強化すべきだ。中国は元々人口が多く、教育の意義はとても大きい。各世代の人々がそれぞれ努力してこそ、国民全体の素質が高まるのだ。一人の大学生として、私はまず自分から始め、家族と友人に影響を与え、小さな範囲から大きな範囲へと、ゆっくり周りの人々を変えていきたい。

#### 【日本語分団】

- 瀬戸市の植樹会場では、当日は雨だったが、みんなてきぱきと植樹を終わらせ、その組織の規律性が感じられた。また、日本の焼き物の町である瀬戸市と中国の景德鎮市が友好関係にあることを知った。四日市公害と環境未来館の見学時、自分の健康と環境のために、必ず努力しようと深く感じた。

植樹活動に参加して、環境が私たちにとってとても重要であることを感じ、伐採は易しいが植樹は難しく、今後は本当に周りの環境を大切にしようと思った。それに先立つセミナーでも、日本のボランティアが植樹に取り組んでいることを知ったが、自分の周りには、同様のボランティア活動に参加している人がほとんどいないことに気付いた。帰国したら、学校のボランティア協会に同様の活動があるかどうか問い合わせ、彼らと今回の見聞を共有したいと思う。

名古屋市港区役所の隣にある名古屋市港防災センターでは、未経験の津波の場をシミュレーション体験した。また、解説員の説明や紹介を聞いて、自分が以前経験した地震や火災時の対応と比較し、以前の対応はたいへん危険であり、取るべき行動が分かった。その時、解説員が教えてくれた知識をすぐ WeChat で家族と共有したところ、家族からたいへん勉強になった、と返信が来た。

中京大学の学生との交流では、彼らと比べ、現実の生活と仕事について普段あまり考えていないことに気付いた。また、彼らの余暇はとても多彩で、バンドを結成したり、バイトを

したりしている。帰国したら、課外活動で自己開拓し、より多くの活動に参加するつもりだ。

- 日本の防災教育はかなり進んでいる。私たちが訪れた名古屋市港防災センターと、その前の「環境問題や自然災害に対して私たちにできること」というセミナーで、日本の防災業務に対する深い認識と経験が見て取れた。名古屋市港防災センターでは、多くの団体が防災・自己救助を学ぶために予約していることに気付いた。また、家庭レベルでの見学者も次々訪れていた。地震シミュレーションでは、ある夫婦がまだ歩き始めたばかりの子供2人を連れてシミュレーション体験していた。2人の可愛い子ども達はテーブルの下にもぐり、大地震に揺られながら、ちらちら下の観客を見ていたので、思わず笑ってしまったが、同時に、幼い時に地震の印象が脳裏に刻まれていれば、将来災害に遭遇した時も慌てないだろうと思った。更に、防災センターへ見学・学習に来た個人・団体の費用負担は一切ないと知った。基本的防護手段の国民への伝授は、日本の最も素晴らしい決定だ。

日本の国民教育システムと環境保護の政策・措置を学ぶよう、周りの知人・友人に伝えるつもりだ。国、民族にはそれぞれ違いはあるが、他国の優れた経験をよりよく学び、自国の特徴に合わせ、中国を一流の国家に築き上げる努力をし、アジア人、或は黄色人種の国際地位を高めるよう努力し、全人類の進歩のために貢献したい。

- 大学主導で公益 NPO の施設を見学した後、適時自分の感想をフィードバック・共有し、各自の学んだことや感想を編集して冊子を作り、宣伝すればよいと思う。防災面では、四日市の公害問題で当事者の語り部さんから生々しいお話を聞いた。

四日市の公害問題は、訪日前からある程度理解し、興味を持っていて、国の発展による都市化、コンビナート化において人と自然が避けられない一段階だ。日本はそれを乗り越えた上で記憶し、古いものを壊して新しいものを打ち立てており、深く印象に残っている。日本では防災意識は人々の心に刻まれ、老いも若きもたいへん礼儀正しく、「ありがとう」と「こんにちは」はいつも口にする言葉だ。更に運転手さんは、誰に対しても温かく挨拶してくれた。

先進国の社会秩序、明確な社会的職責の分業が感じられ、清掃工場の従業員も体面のある公務員の仕事であると感じた。世田谷清掃工場全体の清潔さは中国の博物館並みだ。どの見学箇所（世田谷清掃工場、トヨタ産業技術記念館、名古屋市港防災センター、四日市公害と環境未来館）であれ、団体見学（小学生、高齢者、外国人）を受け入れる職責と能力を備え、国民の母国認識と外国人の日本理解の向上にたいへん意義がある。どんな職業でも社会で尊重・認可され、道路工事や建設現場の従業員も清潔な制服を着ており、日本の人々、特にサービス業従事者（レストラン、ホテル、店員、運転手、ボランティア解説員、清掃員）は、みんな中国人にある程度親近感を持っていて、サービス意識が高く、意識の範疇を越え、精神の域に達している。

日本の大学生はほとんど中国に対する理解が少なく、今回のような国際交流活動は、双方に機会を提供するため更に必要だ。再会を望みつつ、中日友好に乾杯！

- 今回の学習・交流を通じて、日本は環境保護、災害予防等の分野でのシステムが完備されていると感じた。今後、自分の生活の中で「ごみの削減」、「できる限り容器をリサイクルする」、「ごみの分別」などの理念を重視したい。また、身近な人にもこの理念を積極的に紹介するつもりだ。

また、日本の市民、学生との交流を通じて、現地の人々の生活状況や若者の考え方を知り、より客観的に日本を理解した。周りの友人に見聞を積極的に話し、彼らに客観的かつ正確に日本を理解してもらうつもりだ。そして、日本の若者との交流し、一部の人と連絡先を交換したので、今後は連絡を取り続けたい。機会があれば、彼らにも中国へ交流や遊びに来るよう誘おうと思う。

- NPO 法人国際ボランティア学生協会の宮崎猛志理事のセミナーを聞いて、私は大いに励まされた。こんなに多くの日本の大学生ボランティアが、植樹と環境保護活動に取り組んでいるのを見て、一方で中国の大学生はこの分野でどんな努力をしているかと反省させられた。今後、私たちはこの分野で、今の大学生の社会的責任感を育むべく更に努力すべきで、環境問題は一人一人に関係する。これは、現代の大学生がすべきことであり、必ずしなければならないことだと思う。

防災分野について、中国は防災知識の普及において更に努力すべきだ。日本では小さな子供でさえ体験、学習しているのを見て、私たちもこの分野での宣伝に力を入れ、災害による被害を減らすべきだと思う。

#### 【書道分団】

- 防災分野の視察では、多くのことを学んだ。一つは、先進的かつ系統立った防災の方法、もう一つは、災害を未然に防ぐという精神と、在学中の学生に対するかなり成熟した防災教育だ。しかし、植樹活動の印象はごく形式的で、私は1本の木でさえ本当に植えてはおらず、現地の緑化のために何の貢献もしていない。

日本に来て一番印象深いことは、現地の民族文化の保護と維持だ。日本人は和服を着て縁日に出かける機会が多く、自国の伝統文化の魅力を肌身で感じている。我が国では、政府や人々が伝統文化の発揚に尽力しているが、大都市では伝統的な祝日を祝う雰囲気それほど濃厚ではない。私は漢民族の服やそれに類する伝統衣装を着たことがなく、たいへん残念に思う。帰国後は、日本の濃厚な民族文化の雰囲気について学友に紹介し、自国の伝統文化を重視するよう呼びかけ、機会があればより多くの民俗関連活動を体験するつもりだ。

環境保護の分野では、日本の厳しいごみ分別、ごみの効率的なリサイクルの実施に、大いに視野が広がった。分別は細かく、ペットボトルはふたとボトルを別々に回収している。リサイクルの程度は、ごみ焼却後に生じるばい塵の回収と、そこから金属を抽出するレベルにまで達している。

帰国後は、私も周りの人にごみ分別と回収の理念を宣伝し、資源の再利用をアピールしようと思う。

- 「環境・防災に関するセミナー」では、学生たちがアルバイトで稼いだお金を植樹や、河川の清掃、災害復興などのボランティア活動のために使っていることを知り、その後、植樹活動に参加して、日本の国民、特に現代の大学生の環境や社会問題への関心の高さを十分感じることができ、自分の責任として努力していることは、私たち大学生が学ぶべきことだ。

植樹活動を通じて、更にそれに先立つセミナーで、ボランティアの皆さんによる中国での植樹活動についての話を聞き、これは形式的なものではなく、その話から自国ひいては地球全体が環境汚染の問題に直面していることを意識すべきだと感じた。問題は一両日で起きた

のではなく、環境問題の解決も短期間で個人の力に頼って解決できるものではない。四日市公害と環境未来館を参観し、映像や写真を見て、スタッフの説明を聞き、当時の汚染の深刻さが想像できた。しかし現在、青い空や白い雲を見て感嘆すると同時に、当時のことを記憶に留めるべきだ。そして、私たちは最も小さなことから始めるべきだ。千歳清掃工場の完備された設備と処理工程などを見学したが、これらは全てごみ分別の基礎の上に成り立っている。これは中国の国民が意識し、直ちに行動すべきことだ。ごみ処理のカギは処理方法ではなく、減量にある。また、活動全体を通じて、スタッフの自分の仕事に対する情熱がはっきりと感じられ、トヨタ産業技術記念館を含め、ある種のものづくり魂が継承されており、極致を追求する精神には敬服する。

- 植樹活動への参加、環境・防災分野及びその他の視察を通じて、日本が環境保護と自然災害の予防を重視し、宣伝していると感じた。実は、中国も自然災害が多発する国であり、上海大学美術学院の建築学を専攻する一大学生として、私は今後の勉学において住宅構造の安定性、部屋の避難経路の設定、及び建材による思考の表現等により注目するつもりだ。

また、芸術の交流について、まず、大東文化大学書道学科の学生は、日本の学生の書道のレベルや中国の書道との違いについて教えてくれた。また、浅草寺、熱田神宮、徳川美術館等の参観では、日本の古代の建築物の構成や書画から芸術が感じられ、そこから日本の歴史や文化を理解できた。だから、帰国後はクラスメイトと和風建築の特徴及び芸術分野、中国との相違点について共有できるだろう。

- 1. 日本の紙資源再利用に対する理念－水溶性のトイレットペーパー、裏紙利用、再生紙のデザインと利用など、全て中国が学ぶに値する。

日本人は企業の行為に対し「No」という勇気があり、国民全体の健康のために、積極的に企業と闘い、法律という武器により合法的權益を保障した。このような自分の健康のために社会や企業と戦うという道徳と行為に私たちは学ぶべきだ。中国の法制度体系の構築は必ずや改善されるべきだ。

2. 日本と中国の最大の違いは国民性にあり、国民性の発展の源は両国の面積の違いにあり、直面する国情が異なる。中国は土地が広大で資源が豊富であり、地域格差が大きく、発展方式も粗放で、国民は自分の見方で考える内容がより多く、完全にややゆりのある生活レベルに達したとは言えない。一方、日本はかつて西洋や中国の先進的理念を学び、国土は小さく、人口は多くなく、文化レベルの差も大きくない、したがって、国民性がより重視され、より多くの方が社会のために貢献し、他人により配慮している。

3. 帰国後、日本人の先進的文化に内在するもの、例えば礼儀作法やどんなことにも細やかに対応する等を伝えたい。同時に、日本の汚染処理の理念と方法、特に大気汚染の防止と水質汚濁の防止の先進的方法を持ち帰るつもりだ。普段から自分も節水、紙資源の節約に努め、よりよい環境を作るよう絶えず心がけたい。

- ①中京大学: 交流訪問で一番楽しかったのは日本の大学生との交流だ。言葉の壁はあったが、みんなさまざまな方法で順調に相手に情報を伝え、その過程はとても楽しかった。中京大学は以前から好きな学校で、学業とスポーツの双方を重視するという精神を大学が推奨しており、それが気に入っている。上海大学の水泳のテストの方法を紹介すると、彼らも中京大学

の盛んなスポーツ活動を紹介してくれた。「全面的スポーツ」が日本を貫いており、それは功利的に2020年のオリンピックに対応するためだけではない。これに対し、私たちは体育設備の整備、スポーツトレーニングの意識の養成にまだ努力が必要だ。中京大学は私のアイドルである浅田真央さんの通った大学で、中京大学の学生との交流では、真央さんに似た品性、情熱、善良さ、粘り強さ、まじめさが見てとれ、中京大学の優良な校風がうかがえた。

②千歳清掃工場：これは私が最も感動した訪問先で、「ごみ処理場」と聞くと、中国では汚い、散らかっている、職員の地位が低い、という印象があるが、日本では全く異なる。清潔、ハイテク、自動化された処理設備、効率的にごみを処理するだけでなく、環境を守り、更に人々に「環境保護」という職業を尊重し、誇りに思うようアピールしている。中国は科学技術面であれ国民の素質面であれ、先はまだ長い。日本の旅、ありがとう！たくさんの収穫を得ることができた！

○ 一年ぶり、今回は二度目の訪日だ。日本に対する感動と理解～人と人、人と自然との調和のとれた共存～は更に深まった。日本の友人との交流で、私は尊重、傾聴、感謝を感じ、彼らの真心からの温かい笑顔に感動した。訪問中、彼らから多くの助力を得たが、彼らは本当に人助けを自分の楽しみとしている。真剣に働き、全力で事をなしている様子を見て、私は今回もまたこれに感動した。環境保護と防災分野の様々な活動を視察し、多くの有用な知識と経験を確実に学んだ。これは日本人が長期間にわたり努力してきた成果であり、私たちはこの中からその精神、継承を味わった。これは日本で代々伝わるだけでなく、世界各地の人へも伝わるだろう。これには深く惹きつけられた。